

◆頑張っている人物やグループを
広報編集委員が紹介します。…担当/島村立法

悲願の復活を熱意で実現。今年でもう3回目の「香取神社の夏祭り」。実行委員と地域ぐるみの取り組みを紹介します。



香取神社夏祭り 実行委員会

昭和の夏祭りを、今に



8月20日(土)国道55号沿いの香取神社の夏祭りは、今年も多く家族連れで賑わいました。

祭りを前に実行委員会の岩村常男会長と近藤洋好副会長にお話を伺いました。長年途絶えていた香取神社の祭りを「なんとか復活させたい」と、総代をされていた岩村さんが、旅館かとの近藤さんを何度も説得。その後、平成21年に夏祭りが実現しました。

子どもの笑顔を支えに

「ほくたちも子どもの頃の夏祭りが楽しかった。そして、未来に残したい」と一筋に行動。とにかく、資金集めには個人・自治会・事業主・学校などへ理解と協力をお願いに奔走しました。おかげで1回目は、消防署・城山高校野球部の生徒や、出店者の皆さん、地域老人会の皆さんなど数多くの方の協力で、イベント盛りだくさんの工夫を凝らしたお祭りは大成功。祭りでもたのみの「子どもたちの笑顔」だそう。当時の笑顔に涙がこぼれましたと、当時を振り返る近藤さん。

どう伝えていくか

岩村さんは「香取神社の修復の費用や行事、歴史をどのように守り伝えて



岩村常男さん

いけるのが私たちの責任です」と言います。課題も多いですが、最近では祭りの復活もあり、初詣に來られる方も増えているそうです。

将来子どもたちが成長し、地域を思うきっかけになることが、夏祭りの意義だと感じました。

夢は県内に轟く祭りに

今年「かとりキャップ」をかぶった学生ボランティアが大活躍し、マジックショーや神社の境内で行われたジャンケン大会・ビンゴ大会などを盛り上げ、子どもたちは大喜び。

回を重ねるたびに理解と協力も増え、皆さんへの感謝の思いでいっぱいです。

「夢は10回目には花火を上げたい。そして、今は奉納相撲が神社と離れたので、県内に知られる夏祭りとなり、山の上で子どもだけの奉納相撲でもできたなら…」と岩村さんたちの夢は膨らむばかり。

子どもたちの溢れる笑顔に支えられ、協力してくださった方への感謝の気持ちを忘れず、早くも来年に向けて始動しています。



近藤洋好さん

編集後記



▼初めて履いたわら草履。足の指がのびのびできるし、伝わってくる地面の感触が裸足で歩いているようで、その快適さにビックリ。(猪)

▼昔の衣装に身を包み、当時は振り帰ってみようの特集を企画。モデルに記者にカメラマンにと奮闘した結果、熱ができました。(m)

▼「塩の道」とかけまして、「成功への道」と説きます。その心は…

どちらも失敗(しよっぱい)を乗り越えなければなりません。(S)

▼慣れない着物・慣れない山道での取材に、たった一日で体はもうクタクタ…。先人たちの暮らしと智慧には学ぶことが多かったです。(あ)

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi.konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi.konan.lg.jp



ボランティアの学生

